

## 平成18年度「専修学校を活用した若者・自立挑戦支援事業」成果報告書

事業名	日本版デュアルシステム活用型即戦力、総合的モバイル人材育成プログラム及び指導者養成プログラムの開発		
法人名	社団法人沖縄県専修学校各種学校協会		
学校名			
代表者	会長 名城 政次郎	担当者 連絡先	新井 由夫 098-832-5166
<p><b>1. 事業の概要</b></p> <p>本事業の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業ニーズに合致したより実践的なカリキュラムへの発展的改善。</li> <li>・学校と企業の連携により人材を育てるためのデュアルシステムを活用した実践的プログラムの構築。</li> <li>・沖縄県内の専門学校指導者の育成とレベルアップ。</li> <li>・最新かつ最高レベルの技術を身につけるための教材の開発。</li> </ul> <p>上記目標を達成するため、実施委員会及び研究開発委員会、カリキュラム作成ワーキング、教材作成ワーキング、指導者養成ワーキングを設置し、研究開発を実施した。</p> <p>カリキュラムに関しては、昨年度開発した『モバイルクリエイターカリキュラム』の見直しをおこない、一部の項目名、順序の変更やシラバスの書き換えを行った。また、より企業ニーズに合致した実践的なデュアル型のカリキュラムにするため、県内の代表的なモバイル関連企業と共同でデュアル訓練カリキュラムの開発を行った。</p> <p>教材に関しては、昨年度作成した『モバイル基礎標準テキスト モバイルマスター』の続編として『モバイルコンテンツの基礎 開発編 制作・管理』の開発・作成を行った。</p> <p>指導者養成に関しては、開発したカリキュラムや教材を使用してモバイル人材を育成するための指導者を養成するためのセミナープログラムの構築と専門学校教員向けに県外から講師を招きセミナーを実施し、県内の専門学校指導者のレベルアップをはかった。</p> <p><b>2. 事業の評価に関する項目</b></p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>カリキュラム、教材及び指導者養成セミナーについては、ほぼ目的通りに達成できたと思われる。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>モバイルコンテンツ・プログラミングの企画・開発・管理・評価・販売までの総合的モバイル人材育成のためのデュアル活用型総合的・ユニット型カリキュラムが構築されます。企業ニーズに合わせ、たとえば企画・開発の人材が必要な場合は全体カリキュラムの中で該当ユニットを実施することにより人材が育成できるようなカリキュラム構成になっています。また、育成期間も、専門学校での3～4年制への導入から1～2年制への変更や3ヶ月間の委託訓練用に変更できる点が、このカリキュラムの大きな特徴である。</p> <p>また、モバイル人材育成のためのスタンダードな教材として昨年度開発した「モバイルサービスの基礎 販売編(モバイルマスター)」と今年度開発した「モバイルコンテンツの基礎 開発編」は現在市販されている個別ジャンルの教材の総合的モバイル入門書としての位置づけとなる教材である。</p>			

### ③今後の活用

平成19年度開設の1-2年課程デュアル型モバイルコース及び既存の情報系3-4年課程での選択科目として本事業にて開発される総合的モバイル人材育成カリキュラムおよび教材が活用される予定である。また、導入した学校でのカリキュラム及び教材の実証・検証により開発カリキュラム及び教材の改善を行う。

そして、モバイルコース(学科)を平成20年度開設予定として準備に入っている学校も2校あり、同様に今回開発されたカリキュラム(改善型)と教材が活用される予定である。

### ④次年度以降における課題・展開

モバイル業界と云う技術革新が速い分野でのカリキュラムと教材なので、常に最新の情報と技術・知識を網羅したものとなるように毎年の改訂が必要とされる。また、デュアル型カリキュラムの場合、各々受け入れ企業ごとのカリキュラム作成が必要なるためカリキュラムの変更改善などの課題が残る。

また、今回開発されたカリキュラム及び教材を使用した実証講座を実施していないため、是非、導入校での実施データを収集して分析する必要がある。また、指導者の質のレベルの保持のためのフォローアップを1校単位ではなく、導入校全体の問題として取組んでゆくべきである。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①ニーズ調査等

実態調査及びニーズ調査は実施しなかった。

ただし、企業ニーズにあったカリキュラム開発のために、実際の企業ニーズと学校側が考える企業ニーズとにズレがないかのアンケートを実施した。

回答数は、県内のモバイル関連企業2社、県内の情報系学科を有する専門学校3校でした。

アンケート内容は、

企業向けは、雇用しているスタッフの職種及び業務内容、その業務に必要なスキル、現在のスタッフ数及び今後の募集人数について。

専門学校向けは、学生が目指す職種と指導内容(スキル、ソフトウェア)と就職実勢についてです。

### ②カリキュラムの開発

昨年度の継続事業として、昨年度開発したカリキュラムをもとに、より企業ニーズに合致したカリキュラムにするため、昨年版カリキュラムの見直し及び修正、デュアル訓練カリキュラム作成のために県内のモバイル関連企業と共同での開発を実施した。そのために、昨年版カリキュラム及びシラバスを企業側で洗い直し、各部門毎(システム部門、デザイン部門、コンテンツ部門)に、必要なスキル及び知識部分を抽出し、優先順位をつけたことで、専門学校における指導がより明確になった。

また、デュアル訓練カリキュラムについては、受入時期や受入可能人数などの変動要素はあるものの、専門学校と企業との連携がより明確に具体的になったカリキュラムが出来上がった。

### ③実証講座

全12回(1/13～2/17) 対象者:沖縄県内の専門学校教職員

講座全体のテーマ:平成17年度事業及び本年度事業において開発された「モバイル人材育成カリキュラム」や教材(テキスト)を使用し、モバイルの基礎知識のみならず、コンテンツクリエイターとしての技術、指導方法、指導ポイントなどを教授し、沖縄県内の指導者(教員)のレベルアップを図り、県内専門学校の高度化を推進することを目的とする。

実施内容: 第1回オリエンテーション(本講座の意義と目的、開発カリキュラム等の説明) 参加者13名

第2回モバイル総論Ⅰ(モバイルサービスについて) 参加者14名

第3回モバイル総論Ⅱ(モバイルコンテンツについて) 参加者15名

第4回モバイルコンテンツ制作管理Ⅰ(キャリア毎の仕様、公開方法など) 参加者12名

第5回モバイルコンテンツ制作管理Ⅱ(モバイルアプリなど) 参加者10名

第6回Flash+Flash Lite(Flashによるアニメーションとスクリプティング) 参加者9名

第7回Illustrator、Photoshop(モバイル用素材の加工、最適化など) 参加者9名

第8回モバイル関係技術(情報セキュリティ、モバイル情報倫理など) 参加者9名

第9回ヒューマンインターフェース(インターフェース、ユーザビリティなど) 参加者9名

第10回モバイルビジネス(モバイルベンチャービジネス、ビジネスプランなど) 参加者9名

第11回プロジェクト演習(ワークショップにおけるプロジェクト演習の手法) 参加者8名

第12回総括(日本版デュアルシステム、カリキュラム利用法など) 参加者8名

●各回アンケートをとっていますが、「セミナー全体の印象」や「セミナーの内容」については、「大変良かった(参考になった)」または「良かった(参考になった)」という結果がほとんどでした。

また、講座の時間(1講座3時間)については、内容にもよりますが「短い」という意見もあり今後の検討課題として残ります。

受講者の感想については、下記に列挙しますのでご参考ください。

- Web作成の指導でどこを重点をおけば良いかこれまで曖昧でしたが、的を絞れたと思います。
- 知らない情報が多くあり勉強になりました。
- 参考テキストのデータも使わせていただきます。評価システムはすぐにでも使いたいと思います。
- キーワードをインプットしながら進めるという事。
- 授業でも興味を持つ教材研究が必要だと感じた。

### ④その他

標準的なデュアルシステム活用型のカリキュラムの開発を考えていたが、企業毎や業種ごとの事情などがあり、スタンダードなカリキュラムの開発が難しいため、個別の企業とのカリキュラム作成となった。が、どのようにスタンダード化するのかを考えた。